

皆で集まり楽しく夏季合宿！

わいわいがやがやとやりながら涼しい清里で虫と楽しく遊びましょう。今年も以下の内容で夏季合宿が計画されました。ふるってご参加ください。

多摩虫企画担当です。

やっと関東も梅雨入りしたようですが、夏はもう直ぐです。

今年も、恒例の夏の合宿を以下に計画致しました。

真夏の一夜、仲間で楽しく過ごしませんか。

皆様の参加申し込みをお待ち致します。

場所；清里の小平市八ヶ岳山荘。昨年と同じですが、

何と言っても安いですし、夏の信州の採集には、

場所的にベストに近いでしょう。

日程；8/4（土）～5（日）。4日午後5時までに清里の小平市八ヶ岳山荘集合。

6時よりの夕食（食堂にて）後、別室にて懇親会を行います。

会費；3500～4000円（含む1泊2食付2200円）、除く交通費。

要領；原則、現地集合、現地解散（5日朝食後）ですが、必要に応じ

乗り合せや配車組合せを、幹事が検討、調整致します。

申込；参加申込みは、第一次〆切り、7月3日までに下記企画幹事まで。

尚以降、7月26日まで受付ますが、満室の場合は参加NGとなります。

又、7月26日以降のキャンセルは2200円を負担頂きます。

北川；kitagawa.atoc@h6.dion.ne.jp 0422-55-4190

仲西；guizumo@jcom.home.ne.jp 03-3397-5412

早坂；kouji-h@c3-net.ne.jp 045-823-4430

小柴；koshibakiyoyuki@yahoo.co.jp 042-327-4321

* 編集部より

「多摩虫」50号記年号を11月に発行予定です。原稿を大募集しております。

「私の昆虫少年時代」と題して、自分の子供時代の採集の思い出などを書いてください。

できれば写真つきで、1人半ページくらいが目安です。

それとは別に一般の原稿、短報も募集します。編集委員の山田（成）までメールか、手紙でお送りください。締め切り9月20日

記年号の成否は皆様からの原稿の数に左右されます。お忙しいでしょうが気を入れて多数お寄せください、期待しております。宜しくお願い申し上げます。

* 新入会員（宜しく願いいたします）

中村英夫 〒211-0025 川崎市中原区木月3丁目10-28-21 T&F:044-433-3516

ML:don_giovanni@tiger.odn.ne.jp 携帯:090-4538-1829

* 7月例会はすでにお知らせしたとおり第四火曜日（7/24）となります。なお8月例会はお休みです。夏季合宿に全力投球で行きましょう。また、9月は第二火曜日（9/11）11月は第四火曜日（11/27）となります。変更ばかりで申し訳ありませんが、祭日と会場の都合です。何卒ご容赦の上お間違いなきよう宜しくお願い申し上げます。

* 30周年記念行事基金の一般会計への繰り入れについて

3/10の総会時、同日現在の想定収支で¥3917の繰越でご承認いただきましたが、その後ワッペンの完売（完納）東京都の蝶類データ集（現在残部65部）の販売想定数を上回る売上等により以下の通りの大幅繰越（¥29843）となりました。なお、総会会場費、器具借用代、全体にかかる消費税、サービス料等の支出は一括し祝賀会準備費として計上しました。


ここに新しい最終収支を示しますのでごらんの上6月中に一般会計に繰り入れることをご承認いただきたいと思ひます、宜しく願いいたします。

30周年行事会計		2007/3/11～		
収入の分		金額	内訳	
企画行事余剰金		24237		
セリ会よりの基金		187900		
祝賀会会費		504000	8000*63	
ワッペン販売費		104400	96枚	
データ集販売		93750		
	合計	914287		
支出の分		金額	内訳	
祝賀会費		441000	7000*63	
祝賀会準備費		70766	室料、借代、雑費他	
ワッペン作成代		80220	100枚	
データ集印刷代		262558	300部	
饅頭代		29900	60個	
	合計	884444		
一般会計繰り入れ		29843		

* 新刊

オオムラサキ	栗林貞多男	信濃毎日新聞社	¥ 5000	026-236-3377
新訂 原色昆虫大図鑑 (I)	矢田脩他	北隆館	¥ 7500	03-5449-4591
公園と街はずれの自然観察	清邦彦	六本脚	¥ 1300	03-5625-6485
台湾蝶図鑑 (III)	徐堉峰	国立鳳凰谷鳥園	¥10000	
台湾南投県鹿谷裕郷鳳凰村仁義路 1-9 号				
昆虫の食草食樹ハンドブック	森上信夫他	文一総合出版	¥ 1200	03-3235-7341
上高地の蝶	大宝眞	(株) アドミックス	¥ 1400	03-3561-8030

* 新聞紙上より



いつもここからの日常の方程式

もう夏も終わってしまいましたが、夏といえば、海よりも何よりもクワガタなのです。僕の中では、幼少のころから34歳の現在までそのなのです。

長い間、クワガタマニアをやっていると、おばちゃんには「飼ってるのはクワガタだよ」と何度言っても、毎回「カブトムシ元氣？」と聞いてくるな〜とか、だいたいの女性は「こんなのゴキブリと一緒にじゃん」って言うてるな〜とか分かってきます。

こんな事が分かった所で、人生の何の役にも立ちませんが、このような面倒くさいやり取りを、スムーズに流す事が出来るようになります。この状況を日常の生活で例えるなら、「天然の人が勝手に絡んできた」という共通点から「偉い人の変なギャグを聞くはめになった時」に似ています。

あとクワガタマニアとして、よくされるのが「カブトムシとクワガタどっちが強いの？」という質問。純粋な質問で微笑ましいのですが「カブトムシもクワガタも何種類もいるので一概には言えない」と聞いた方も答えた方も、釈然としない答えになってしまいます。これも「空手とボクシングどっちが強いの？」や「コーラと

チョウの卵採取

町田市職員逮捕

山形県条例違反容疑

環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているチョウ「チヨウセンアカシジミ」の卵を違法に採取したとして、山形県警米沢署は9日、東京都町田市職員菅藤義広容疑者(46)と神奈川県相模原市津久井町根小屋(1)ら3人を真文化財保護条例違反の疑いで逮捕した。県の天然記念物にも指定され、条例の「現状変更の制限」に当たることしている。

ほかに逮捕されたのは、新潟市中央区鳥屋野1丁目と一緒に住む会社員本多勲史(33)と無職稲村明子(33)の2容疑者。調べでは、本多、稲村両容疑者は3月27日、菅藤容疑者の依頼を受け、山形県川西町のチヨウセンアカシジミ保護区域で、樹木に産み付けられていた卵280個を樹皮ごと削り取って、現状を変更した疑い。3人はネットで知り合ったチヨウマニア仲間という。

山形県内では04年以降、被害が相次いでいる。

クワガタから見る共通の法則

06.9.6 読売(9)

ドクターペッパー、どっちがうまい？」とかに近いものがあります。

このような、絶対的な答えが出ない質問がよく聞きますが、答えが出ないのを知った上で、言い合って議論を楽しみたいのでしょうか？ それとも本当に答えを求めているのでしょうか？ これも人それぞれなので、一概には言えませんね。

クワガタの話から飛躍し過ぎてしまいましたが、日常の中で黙認され過ぎていて、浮き彫りにならない、ある一定の法則ってジャンルを問わず共通性があるような気がしました。(山田一成)

広がれ 蝶の道

07.5.11 朝日



ジャコウアゲハの食草を子どもたちに教える南孝彦さん＝東京都品川区の勝島運河で、南さん提供

チョウの好む植物を校庭や公園に植えて生息場所を増やす計画が、東京都品川区で始まった。名付けて「蝶の道プロジェクト」。チョウの愛好家が呼びかけ、環境NPO法人が協力、区が苗木代などの予算をつけた。チョウの「レストラン」となる花壇を200〜300㎡ごとに設け、区全域にチョウの飛ぶ道を張り巡らせたいという。

チョウの好む植物を校庭や公園に植えて生息場所を増やす計画が、東京都品川区で始まった。名付けて「蝶の道プロジェクト」。チョウの愛好家が呼びかけ、環境NPO法人が協力、区が苗木代などの予算をつけた。チョウの「レストラン」となる花壇を200〜300㎡ごとに設け、区全域にチョウの飛ぶ道を張り巡らせたいという。



ジャコウアゲハ (南孝彦さん撮影)

護の著書があり区内で講演活動をしているデザイナーの南孝彦さん(54)。区内の勝島運河沿いに生息している珍しい南方系のチョウ「ジャコウアゲハ」が、サナギの乱獲で少なくなっているのに危機感を抱いたのがきっかけだった。

昨年春、小中学校の校庭や公園の一角を借り、ジャコウアゲハの幼虫の食べるウマノスズクサやミカンなどを植えた。夏以降は、花に成虫が飛来し、卵が孵化して幼虫やサナギも観察できたという。子どもたちには、小さな命にも卵を産むという大きな使命があると分かったようで、うれしかった。

区内全域で取り組み、チョウの街にできないか。南さんがそう呼びかけると、区やNPO法人「エコタウンしながわ」が応じた。区は苗木代や、チョウと食草の関係などを解説したパンフレットの作製費計130万円を予算化。「エコタウンしながわ」は区の広報などでボランティアを募り、区内約30カ所で苗木を育ててもらうことになり、4月下旬、小学校や児童センターなど区内5カ所でスタートした。

苗木は10種類以上。幼虫が食べる草としてミカン、アシタバ、パンジーなど、成虫が蜜を吸う植物は、花期が長いキバナコスモスやマリーゴールドなどを植え、カタバミやススキも交える。チョウによって幼虫の食草や成虫が集まる花が違ったり、1カ所に数種類を植

などを解説したパンフレットの作製費計130万円を予算化。「エコタウンしながわ」は区の広報などでボランティアを募り、区内約30カ所で苗木を育ててもらうことになり、4月下旬、小学校や児童センターなど区内5カ所でスタートした。

苗木は春秋の2回、火力発電所や清掃工場、公園、小中学校などに植える。管理者から許可を得た。日当たりがよく約1坪(3.3平方メートル)あれば十分という。

ボランティアは水やりや草取りのほか、植物の生育やチョウの飛来状況をメールで「エコタウンしながわ」に報告する。

「チョウの食草は雑草も多いので、抜いたり刈ったりしないように区民全体に知ってもらうことも大切」と南さんは話す。区の担当者も「できるだけ多くの人に参加してほしい」と話している。(上林格)

「おいしい」草木 子らと植える